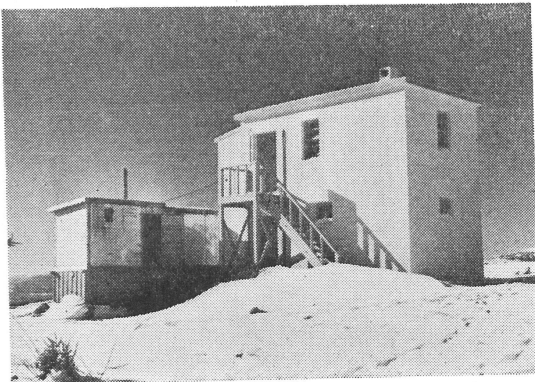


地方だより

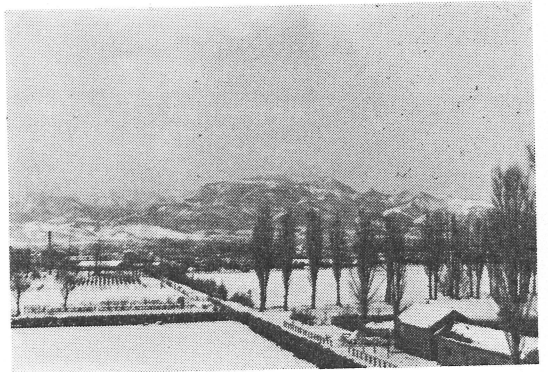
雲物理観測所

三年ほど前に北大の気象学研究室が本欄で紹介されたが、開設されたばかりで何の施設も持たなかった。こんど雲物理観測所が出来たので披露したい。

札幌近郊の手稲山(1023m)はよく雲がかゝるし、大学からも近いので、かねがね観測室を建てたらと考えられていた。NBCのテレビ送信所が山頂に出来てからは電源にも近く、自動車道路も開かれたので、北海道在住の雲物理屋が研究費を出し合って写真のような観測室を昨秋、建立した。そうして雲物理観測所と命名した。ブロック建の山小屋で宿泊設備に過ぎないが、山頂での仕事は電源と宿泊施設さえあれば、問題の大半は片付いたことになる。必要な器械と食料などはその都度トラックで運び上げればよいし、冬期の観測は雪洞の方がかえって工合のよいことが多い。



雲物理観測所



北大より手稲山を望む

総面積：10坪，収容人員：4～6名，電源：交流 100V，2KW，他に仮建築で3坪の観測室と石炭庫がある。

これまで次のような仕事に利用されている。雲粒の電荷，粒度分布の測定，降雪の総合観測，雲中並びに低温における湿度測定法の研究，着氷及び飛雲の電荷測定，積雪の放射能の垂直分布測定，エアロゾルの測定，ミリ波の発信。

一週間に一度は1～2日間雲に包まれるし，冬期は着氷することなどは北国の山頂に共通したことであるが，大学からよく見えるし自動車で1時間余，市内電話（呼出しであるが）が通じる等，すこぶる便利なのが特徴である。最大の利点は11kmのスキー滑降コースを帰途に使うことで，雲の研究を目的とするスキーヤーならば世界中の研究者に無料で開放されているので利用されたい。

（孫野長治）